

ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民俗文化財

世界に誇るとりで鳥出神社の鯨船行事

「鳥出神社の鯨船行事」は、富田地区に伝わる民俗行事で、豪華に飾り付けられた鯨船山車を操り、はりぼての鯨を仕留めるといふ、全国でも珍しい陸上で行われる模擬捕鯨行事です。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催が中止になりますが、世界に誇る無形文化遺産「鳥出神社の鯨船行事」の魅力をご紹介します。



北島組 神社丸



中島組 神徳丸

■貴重な鯨船行事

鳥出神社では、四つの組(北島組、中島組、南島組、古川町)がそれぞれ豪華な鯨船山車(神社丸、神徳丸、感應丸、権現丸)によって、演技をします。

これらの鯨船山車は、実際に古式捕鯨に用いられていたような船ではなく、近世に将軍や大名が用いていた豪華な御座船ござふねを表しています。

三重県の北勢地方に伝わる鯨船行事のうち、富田

地区のものが最も古来の姿をとどめていると考えられ、平成9年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

また、平成28年には全国33件の「山・鉾・屋台行事」の一つとして、ユネスコ無形文化遺産に登録され、国際的に保護されるべき貴重な文化遺産と位置づけられました。



御座船模型

■鯨船行事の不思議

捕鯨の神事が行われる富田地区などは、いずれも鯨の捕れる地域ではありませんが、対岸の知多半島には捕鯨漁の記録が残っています。また、江戸幕府第8代将軍徳川吉宗が紀州藩主のころ、捕鯨を行わず軍事教練に特化した鯨組が松阪の紀州藩領に置かれていたことや、伊勢湾を諸藩の御座船が航行していたこと、幕府や一部大名で行われていた「御船祭みふねまつり」との関係があることなど、起源については諸説あります。

県・市指定の鯨船

◆鯨船山車(明神丸)

<三重県指定有形民俗文化財>

(保持者:南納屋町鯨船山車明神丸保存会)

起源は江戸時代までさかのぼると伝えられ、現在では毎年10月の「四日市祭」で練りを披露するほか、5年に一度「大四日まつり」にも出演しています。

◆磯津の鯨船行事

<四日市市指定無形民俗文化財>

(保持者:磯津鯨船保存会)

磯津の氏神である塩崎神社の祭礼に奉納する行事として、大正年間に始まったもので、船名は「大正丸」です。現在は磯津鯨船保存会による活動再開を準備しています。

■ 迫力満点！ 鯨船行事のストーリー

- ① 「流し唄」(船が出航してから目的地に着くまで歌う歌)を歌いながら鯨を捜す
- ② 羽刺しと呼ばれる踊り子が沖の鯨を見つけ、唄が「役唄」に替わる
- ③ 唄や太鼓に合わせて、逃げる鯨を追いかける
- ④ 追い詰められた鯨が反撃し、鯨船を後退させる
- ⑤ 攻防の末、最後には鯨を仕留める

このように、一連の動きにストーリー性があるところが、この行事の特徴です。

【演技の様子(YouTube)】



(流し唄)



(演技開始)



(鯨の逆襲)



(鯨突き)



南島組 感應丸



古川町 権現丸

■ 本番は8月14日・15日

戦前までは、鳥出神社の例祭である9月23日の「ガニ祭り(蟹祭り、神祭り)」に行われていましたが、東富田地区が漁師町であるため、漁閑期のお盆の時期に祭りが行われるようになったと伝えられています。

初日(8月14日)には、町の平安と祭りの無事を祈願する鎮火祭が行われたのち、町内を練り歩く「町練り」が行われます。

15日の「本練り」では、各組が順番に鳥出神社の境内に入り鯨突きを奉納しますが、鯨は暴れ回り、簡単には突かれません。社殿の前に追い詰められては間をすり抜けて逃げ出すことを繰り返し、広い神社境内を駆け巡る迫力ある演技が繰り返されます。

すべての演技が終わると、行事の無事を神に感謝する宮参りを行い、行事が終わります。

■ 裏の主役 鯨(鯨被り)

はりぼての鯨の中には「鯨被り」という役が二人入り、演技をします。そして、残りの「鯨被り」の人々は、勢いよく走る鯨を受け止める役に回ります。

中には、100キログラムもの鯨を一人で持ち上げる力自慢もいます。



はりぼての鯨



力自慢の鯨被り

◆ 南楠鯨船行事

<四日市市指定無形民俗文化財>

(保持者:南楠鯨船保存会)

南楠の南御見束神社の祭礼に奉納する行事として、明治期に始まったもので、船名は「龍神丸」です。毎年10月第2土・日曜日に開催されています。

◆鯨船の演者たち

羽刺し(ハタシ)



船上で鯨捕りの所作を行います。ドンザと呼ばれる豪華な衣装をまとい、太鼓と唄に合わせて、体を前後左右に大きく振って舞います。

櫓漕ぎ(ロコギ)



ロコギは3~7歳の一番年少の役ですが、大きく揺れる船の上で櫓や船に必死につかまって櫓を漕ぎます。

腰持ち・足持ち



船上で羽刺しの腰・足を持ち、演技を支えます。

太鼓叩き



屋形の中で太鼓を叩きます。鯨船は太鼓の拍子に合わせて進行します。

◆富田鯨船保存会 4会長の熱い思い



古川町権現丸保存会
みちがみ
会長 道上秀則さん

古川町の鯨船行事は、親鯨とは別に子鯨を子どもが持って演技をします。子どものころから祭りに参加し、さらに次の世代へつなげてほしいと願っています。



中島組神徳丸保存会
まさひこ
会長 加藤正彦さん

ユネスコに登録され後世に引き継ぐことが自分たちの使命だと思って頑張っています。
無事に新型コロナウイルス感染症が収束し、来年こそは披露したいですね。



北島組神社丸保存会
ひろや
会長 鈴木裕也さん

北島組では女性が太鼓叩きを行うなど、女性の参加を進めています。
まち全体の祭りなので、女性も一緒に伝統を後世に伝えていきたいですね。



南島組感應丸保存会
のりかず
会長 伊藤則一さん

南島組は古来の伝統を守りやってきました。
これからは若者たちが中心となり、年長者から正式な姿を継承して、未来へ鯨船行事をつなげていきたいと思っています。

4会長のインタビューは、8月11日(火)~20日(木)放送の「ちゃんねるよっかいち」[地デジ12ch<CTY>]、YouTubeバックナンバーでも紹介します。

◆誇りを持って後世へ

■山車を守る

行事とともに歴史的な価値のある山車や山車の装飾品などを、後世に残すための修繕は重要です。

山車を激しく揺すりながら練る鯨船行事は装飾品にもさまざまな工夫や知恵が隠されており、古い装飾品の修理では、専門家の意見を聞きながらできるだけ当時の意匠や技法を残すように努めています。



専門家による修理指導委員会

■次世代へつなぐ

これからも行事を継続するために、富田小学校では、子どもたちに鯨船の歴史などを伝え、住んでいる地域への誇りを醸成するとともに、次世代の担い手を育成しています。

また、富田中学校では、2年生が中学生の視点で地域の皆さんと意見を交換する公開討論会「中学生と語る富田の未来」で、鯨船行事についても話し合っています。

さらに、四日市大学では、「祭りとまちづくり」の講義を受け、鯨船の山車を曳き祭りに参加する学生たちもいます。

そして、三重大学と本市での共同研究として、毎年各組の山車や飾りの実測調査を行って、将来につなぐ貴重なデータ集積を行っています。



写真上段:富田小学校、中段:富田中学校、下段左:四日市大学、下段右:三重大学

◆特設サイト 鯨船まつり

鳥出神社の鯨船行事について、もっと知りたい人は、新たに公開したホームページ「鯨船まつり」をご覧ください。

HP <https://www.city.yokkaichi.mie.jp/kyouiku/kujirabune/>



●この記事についてのお問い合わせ・ご意見は

社会教育・文化財課 ☎354-8238 FAX354-8308